

自然共生の智慧の再興・発展（その4）

美しい日本の自然キャンペーン

「美しい日本の自然」の再発見 / アジア・海外への発信

日本の自然の特徴

多様な地形と生態系がもたらす美しい自然風景
数多くの固有の動植物が身近に生育・生息
多様な主体の関わりによる保全・活用の伝統



美しい自然：日本を代表する国立公園の大自然の風景から里地里山が織りなす日本人の原風景まで

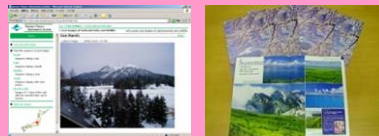
自然体験の推進

日本の自然ならではの自然体験プログラムやエコツーリズムの推進



情報発信

国立公園や日本の自然についての国内外への情報発信(インターネット他)



受入れ体制の整備

自然体験の場(施設)の整備
自然観察ガイドの育成
外国語標識・パンフレットの整備



アジア諸国に対する技術支援等

地域との協働による日本型自然資源管理(国立公園管理)技術を途上国で取り入れるための専門家の派遣。共同による国際的情報発信

日本のすばらしさ・美しさの再認識と将来を担う子供達に対する原体験の付与
国際交流の促進・観光客誘致、技術協力によるアジアの自然環境保全の実現

自然共生の智慧の再興・発展（その5）

「2010年目標」の達成は厳しい状況。国家戦略の3度目の策定を通じて温暖化対策との統合的推進等を行うほか、次期世界目標の設定をリードする。また、「里地里山」に代表される日本モデルとしての自然共生の知恵を国内・世界に発信する。

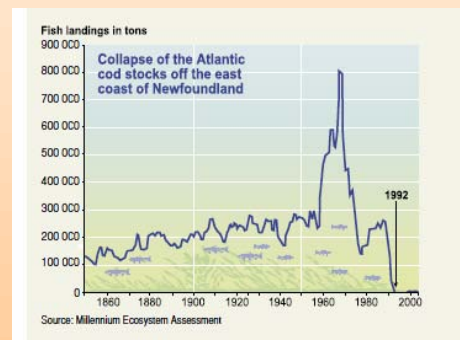
[現状と問題点]

2010年目標（世界目標）の達成は困難

GBO (Global Biodiversity Outlook (2006年)) によれば、大半の評価項目で悪化しており、目標達成は厳しい状況

2010年目標：2010年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させる

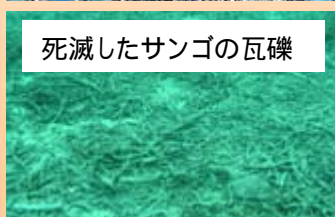
GBO：生物多様性条約事務局が世界の生物多様性の状況を15の指標を用いて評価したもの



1992年に発生した、ニューファンドランド東岸における大西洋タラ个体群の崩壊



豊饒のサンゴ礁



死滅したサンゴの瓦礫

[今後の施策の方向と課題]

国内における取組の着実な推進

- ・生物多様性国家戦略の3度目の策定と着実な実行
- ・100年先を見越した国土のグランドデザイン提示
- ・「3つの危機」への対応強化
- ・温暖化対策と生物多様性施策の統合的推進
- ・「さとやま自然資源共用プラン」の創設

国際的なリーダーシップの発揮

里地里山 / SATOYAMA
を発信

持続可能な利用の日本モデルを国内外に発信 -

- ・条約締約国会議（2010年日本開催）で採択する次期世界目標の設定をリード
- ・世界に先駆けた日本版GBOの実施
- ・アジア国立公園イニシアチブ
- ・全球的サンゴ礁保護区ネットワークの構築



次期世界目標の設定に向けた リーダーシップの発揮（その1）

生物多様性条約

経緯

- ・1992年 ...地球サミットで採択、翌年日本が締結
- ・(2007年4月 現在、190か国(EUを含む。米国は未締結。)

目的

生物多様性の保全、 生物多様性の構成要素の持続可能な利用、
遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分

2010年目標

- ・「2010年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させること」
- ・COP6(2002年、ハーグ)にて採択。

今後のスケジュール

- ・2007年：第3次生物多様性国家戦略策定
- ・2008年：G8サミット(日本)
- ・2010年：生物多様性条約COP10の日本開催(立候補中)、
国連「国際生物多様性年」

次期世界目標の設定に向けた リーダーシップの発揮（その2）

地球規模生物多様性概況第2版（GBO2）

◆生物多様性条約事務局が条約の実施状況を把握（2006年3月に公表）

◆15の指標により生物多様性の状況を評価。12の指標で悪化傾向

<分野：フォーカルエリア>	GBO 2 で評価を行った指標	評価結果
<多様性の構成要素の状況と傾向>	特定の生物群系、生態系及び生息地の規模の推移	悪化
	特定の種の個体数及び分布の推移	悪化
	保護地域の指定範囲	改善
	絶滅のおそれのある種の指定の変更	悪化
<持続可能な利用>	主な家畜、栽培種及び養殖魚の遺伝的多様性の推移	悪化
	持続可能な森林、農地生態系等の面積	悪化
<生物多様性への脅威>	生態系フットプリント及び関連する概念	悪化
	窒素の集積	悪化
<生態系の健全性と生態系による財、サービスの提供など>	外来生物の傾向	悪化
	海洋食物連鎖指数	悪化
	生態系の連続性と分断性	悪化
<伝統的知識、革新、慣行などの状況>	水域生態系の水質	悪化 / 改善
	固有の言語の多様性の状況と言葉を話す人の数	悪化
<利益へのアクセス及び配分の状況>	開発中	不明
<資源の移転の状況>	条約の支援のために提供されたODAの額	悪化

次期世界目標の設定に向けた リーダーシップの発揮（その3）

ポツダム・イニシアティブ - 生物多様性2010

経緯

- ・平成19年3月にドイツのポツダムで開催されたG8環境大臣会合において取りまとめ。
- ・生物多様性に関する経済的な評価・分析(対策を講じなかった場合の損失、保全のためのコストの分析など)を行うことや、生物多様性の科学的基盤を強化することなどが盛り込まれた。

概要

- 1) 生物多様性の地球規模の損失における、経済的重要性の分析
- 2) 科学と政策の間のインターフェース(接点)向上
- 3) コミュニケーション、教育および社会の認識、「地球規模の生物種情報システム」の構築の検討
- 4) 生産と消費のパターン
- 5) 野生動物の違法取引対策の強化
- 6) 侵略的外来生物種対策の強化
- 7) 海洋保護区の地球規模ネットワーク
- 8) 生物多様性と気候変化
- 9) 資金調達
- 10) 2010年とそれ以降

百年先を見通した我が国の生物多様性の保全 (その1)

千島列島や赤道近くから流れてきた海流は、ゆたかな生命を育て北の海ではアザラシが子育てにいそしみ、南の海では青々と茂る海草の間をジュゴンの群れが悠々と泳いでいく。



数千、数万 km も離れた遠い国から飛んできた鳥たちが、そここの森や干潟で遊び、餌をついばむ。



奥山だけでなく里地、都市にも巨木がそびえ、大都市にも大きな森があり、猛禽類が悠々と空を舞っている。

都市、町や村に、生き物たちのにぎわいがあり、人々は生き物たちとのふれあいを通して生活のにぎわい、ゆたかさを感じる。

新・生物多様性国家戦略(平成14年3月策定)
「生物多様性から見た国土のランドデザイン」